黄色系シクラメン新品種「ムーンキャンディ」の育成と特性
【要約】岐阜県が育成した黄色系シクラメン品種「ムーンルージュ」の後代から、花色がより濃い黄色で、花弁幅が大きく、葉が丸葉で、製品化率が高い新品種「ムーンキャンディ」を育成した。本品種は、晩生品種で、推奨仕上鉢サイズは５～６号である。
中山間農業研究所　中津川支所　　【連絡先】0573-72-2711

【背景・ねらい】

本県が育成した黄色系シクラメン品種「ムーンルージュ」（品種登録：2007 年８月７日、登録番号：第 15609 号）は、育成から年月が経過して新規性が薄れていた。また、花色がやや薄いため白く見えることがあり、加えて製品化率が低く栽培が難しいという欠点があった。このため、より花色が濃く製品化率の高い黄色系シクラメンを育成する。

【成果の内容・特徴】

１　黄色系シクラメン品種「ムーンルージュ」の後代から、花色がより濃い黄色で、製品化率が高い新品種「ムーンキャンディ」を育成した（出願公表：2022 年３月 30 日、出願番号：第 35903 号）。

２　本品種は、「ムーンルージュ」と比較して花弁の幅が広く花弁に丸みがあり、花色が濃く、葉の形状が丸形である（図１、２）。

３　本品種は、播種から５輪開花までに 340～360 日程度必要な晩生の品種である。播種時期が 10 月中旬から１月中旬の間においては、播種が早いほど開花時期は早くなり、年内出荷のためには（5 輪／鉢開花）12 月が播種の晩限となる（図３）。

４　葉が大型であり、仕上鉢サイズ３～４号鉢での作付けは仕上げ鉢サイズに見合った製品ができないため、推奨仕上鉢サイズは５～６号である（図４）。

５　12 月における開花数は鉢上げ時の基肥施用量により影響を受け、基肥施用量が少ないほど開花数は減少し、出荷時の花のボリュームに影響がある（表１）。

【成果の活用・留意点】

１　データはすべて中山間農業研究所中津川支所（岐阜県中津川市福岡：標高 440m）で栽培、調査したものであり、気温や標高の差、栽培方法によって生育の速度や草姿が異なる場合がある。

２　鉢上げ時の基肥量を一般的なシクラメン栽培における基肥量よりも減らす、あるいは追肥の間隔をあけた場合、出荷時の花数低下につながる可能性があるため注意する（データ省略）。

３　標高の低い地域での栽培については不明である。

【具体的データ】



図１　ムーンキャンディ
（2027 年１月 6 日撮影）

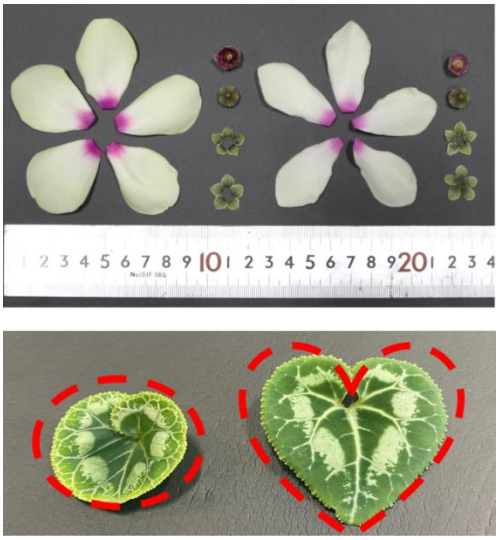


図２　花の形状・色（写真上）、葉の形状（写真下）
（左：ムーンキャンディ、右：ムーンルージュ）

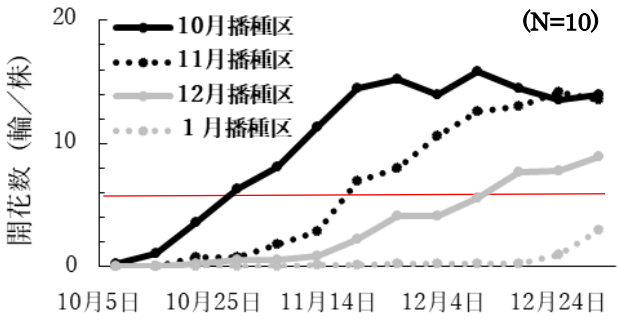


図３　「ムーンキャンディ」播種時期別の開花数の推移
※植物成長調節剤：なし、最低加温温度：８℃

表１　基肥の施用量と草姿

基肥の施用量	草丈 (cm)	株幅 (cm)	開花数 (輪/株)	葉数 (枚/株)
0g/L	19.9	24.5	**8.2**	28.2
3g/L	19.9	23.8	**12.6**	33.6
5g/L	20.5	25.1	**18.9**	47.8
10g/L	21.1	24.6	**22.1**	55.3

・調査日：令和５年 12 月 10 日、（n=10）
・播種日：令和４年 12 月 25 日
・仮植日：令和５年３月 15 日、鉢上げ日：６月 13 日
・基肥　：エコロングトータル花き 391-180
・培養土：Lambert-LM3



図４　「ムーンキャンディ」の仕上鉢サイズの違いと草姿（撮影７年 12 月 10 日）
※植物成長調節剤：なし、最低加温温度：８℃

研究課題名：中山間地の新たな花きブランドの開発（令和 2～6 年度）
多様なニーズに応える中山間地の花き育種と栽培技術の開発（令和 7～11 年度）
研究担当者：工藤　渓汰